

## 《豊太郎が相沢を憎む理由》

私のレポートのテーマは「豊太郎が相沢を憎む理由」である。このテーマにした理由は、実際に豊太郎とエリスの仲を引き裂いてしまう原因を作った人物は相沢であるけれど、免官になった時に仕事を与えてくれて、更に天方大臣に紹介してくれたことから、日本に帰って名を上げるチャンスを作ってくれた人物に対し、憎しむ感情をずっと持ち続けていることが気になったからである。よって私は、これから豊太郎が相沢のことを憎むようになっていったきっかけの出来事や相沢の行動などをいくつか挙げていき、それを元にして相沢を憎む理由を考えていこうと思う。そしてそこから考えた自分自身の意見も述べようと思う。

ここで先に私の意見を述べておこうと思うが、それは、自分の人生をどう進んでいくかということに直面した時、例えそれがどんなに小さなことであったり大きなことであつたとしても、他人の意見に流されずに、わがままになってでもいいから自分がやりたいことをやらなければ、後で必ず後悔してしまうということである。

では、豊太郎が相沢を憎むようになっていった出来事などを挙げていこうと思うが、私がたどり着いた結論は、「豊太郎の人生を切り開いていったのは豊太郎自身ではなく、相沢であったから憎んでいる」というものである。NOとは言えない豊太郎にとっては、相沢の言葉は断ることができないものであり、結果的にもその通りになっている。だから豊太郎のことを全て決めてしまったため憎んでいるのだと思う。

まず一つ目は、P276にあるように豊太郎が免官になった時、仕事を紹介してドイツに滞在させたのは相沢だったということである。このとき豊太郎は P279L6 で「私のことを助けてくれたのは相沢だった」と書いているが、もし、この時点で日本に帰っていたならその後の悲惨なエリスとの別れもなかっただろうし、後悔も少なかったと思う。また、これは私の推測だが、官長に豊太郎がエリスと付き合っているのを報告したのは相沢であると思う。P279L9 で「名前を出すのは差し障りがある」と言っているのは、このあと手記を書いていく都合上、相沢に対して読者が「あいつ悪い奴だ」と思うのを防ぎたかったからだと思う。もしこれが当たっているなら、全て豊太郎のことは相沢によって決められていた、ということになる。

二つ目は、大臣に対して P294L16～P295L1にあるように豊太郎の滞在には、何のしがらみもないので日本と一緒に帰れる、と事前に言ってあったことである。これをもし言っていなかったら、大臣は豊太郎を誘うことはしなかったかもしれない。

そして最後に三つ目は P297L13～P298L3 とあるように、エリスに勝手に日本に帰ることを告げ、エリスをむちゃくちゃにってしまったことである。これが豊太郎の中で、最も重大なことであったと私は思う。自分の口からエリスに告げることができていたならば、後

悔も少しは和らいだと思し、もし相沢が言っていなかったら、必死に看病してくれているエリスの姿を見て、日本に帰らないという選択もできたかもしれないのに、それさえも奪われてしまうことになったのだから。

以上の三点より、豊太郎が決断すべき場において、それを下したのは全て相沢であったという点から、豊太郎は相沢を憎んでいるのだと思う。

この結論にたどり着いたとき、先にも書いた通り、自分の人生に対してわがままに生きた方が、絶対的に後悔は少ないのだと思った。豊太郎は典型的な YES マンであり、そのせいで相沢の手によって人生を方向づけられてしまった。人のアドバイスを聞くということは大切なことであると思うけれど、結局は自分のことは自分にしか分からないのだから、アドバイスを全て受け入れてしまっただけではダメだと思う。私自身も人の意見に流されてしまいがちのところがあるので自分で「これだ！」と思ったことを貫き通すことのできる、固く強い意志を持たなければならないと、このレポートを書きながら感じた。